HISTORY

関西を創った先人の足跡●VOL.3

難波から飛鳥へ―大陸の文化を運んだ 古代国道1号線、竹内街道

難波から京に至るまで大道を置きき

日本書記に言う「自難波至京置大道」と。この推古天皇21年（西暦613年）11月の条に難波から京に至るまで大道を置ききと記されたこの大道は、古代の国道1号線として推古天皇16年に計画され、5年後に完成をみました。難波の津より東へ竹内峠を越えて飛鳥の京へと続きます。

複雑な東アジア情勢の中、朝鮮半島の百済、新羅、高句麗の三国は大和朝廷へ調を納めるようになりました。また、魏・晋南北朝の内乱に終止符を打って、中国を統一した隋とも大きなかかわりをもち、国際社会へと日本が乗り出していく重要な時期であり、必要と欲求によって国家的大事業は行なわれました。

シルクロードの最後の道程として大陸からの使者はこの道を通り、大和盆地を東西に横切り京へ到着したのです。

絶大なる権力の象徴、巨大古墳

現在の堺市役所のすこし東、高野街道との分岐点を東に取ると、すぐ右手南に仁徳天皇陵がみえます。日本最大の陵墓であるだけでなく、広さでは世界一、周知の前方後円墳です。墳丘の盛土だけでも1日千人の人夫を使役し、4年間もかかる大土木事業でした。付近には反正天皇（仁徳天皇第3皇子）履中天皇（仁徳天皇第1皇子）などの古墳群がつづいて、古代大和朝廷の絶大な権力がうかがわれます。

そこから河内平野を東へ取り、羽曳野の丘陵を登りつめると野々上です。聖徳太子の開基と伝えられる46院の一つ、野中寺があります。上の太子は太子町の叡福寺、中の太子は八尾

の将軍寺、そしてここが下の太子として人々の信仰を集めてきた古刹です。境内のかたわらには古代朝鮮半島の貴族の姿を思わせる石像がひっそりとたたずんでいます。

さらに東へ進むと道の随所に大小の古墳が見えはじめます。古市誉田古墳群です。

組織化された集団による国家的土木事業

仁賢天皇陵、応神天皇陵、清寧天皇陵、日本武尊陵（白鳥陵）、来目皇子陵（用明天皇第2皇子）などが点在しており、この地は古代の葬制と関係の深い土師氏の住地で、彼らは単に

小野妹子の墓

土器や埴輪を焼くだけでなく、巨大な古墳の築造を担当した土木技術集団でした。

石川の西側から埴生野丘陵にかけてここには百済からの帰化氏族が5世紀ごろから居住して多くの古墳を築き、百済の文化をもたらし荒野に土木事業を行っていたのです。丘陵の麓から古市にかけて、5世紀初頭に農耕用としてつくられた幅20m、全長4mに及ぶ日本最古の運河の遺構があります。

写真：磯長の里

大陸の夢を育んだ最古の街道は その後日本の道の原形となった

「近つ飛鳥」は渡来人の安住の地か？

近鉄南大阪線の駒ヶ谷駅があり、この集落を横切って流れる小川が河内飛鳥川です。駒ヶ谷から上の太子駅にかけての古称を「近つ飛鳥」といい、奈良の飛鳥を「遠つ飛鳥」と呼んでいました。この「近つ飛鳥」は古くは安宿郡とよばれて、その地名の語源は朝鮮語のアンスクがアシュク、アスク、アスカと転訛して飛鳥となったということです。遠く祖国を離れて、百済系帰化人達が根をおろした所につけられた地名アスカ。朝鮮語のアンスクは「渡り鳥の安住の地」という意味だそうです。

聖徳太子と蘇我一族

推古天皇の摂政として中央集権体制を図り、仏教を導入し大陸文化の吸収と対等外交を推進し、この大道造りに力をそそいだ厩戸皇子、のちの聖徳太子の御廟磯長山叡福寺もこの近くにあります。ここ太子町、むかしの磯長の里は蘇我氏の故里の地であり蘇我一族の古墳群もこの地に残されています。磯長の里を経て大和へ通じる道を選んだのは、時の大権力者蘇我馬子の古里を通るためでもあったのでしょう。そして希代の政治家馬子の墓は今、奈良明日香村にある石舞台古墳であるといわれています。

推古天皇も聖徳太子も蘇我の血を享けるものでした。蘇我系の天皇、推古、敏達、用明、そして大化の改新後に即位した孝徳天皇の御陵などが点在しています。聖徳太子を助け、この地をかけめぐり遣隋使として海を渡った小野妹子もここに静かに眠っています。6～7世紀半ばにかけて、日本歴史の大きな部分が磯長の里に沈められて、いつの頃からか人々はこの地を「王陵の谷」と呼ぶようになりました。

茜色に染まる西方の空、浄土へ続く道

磯長の里から峠道にかかると北側に二つの峰がそびえます。奈良盆地から、そして河内平野から、雄岳(532m)と雌岳(474m)の二上山は美しい姿をみせてくれます。謀叛の罪で処刑された大津皇子の墓が雄岳の頂上にあります。峠を越えるとすぐ奈良盆地が広がり真正面に畝傍山が浮かびます。降りきった処が当麻の村、振りかえると二上山が夕日の中、墨をはいたように立ち、飛鳥の京から人々はその様を西方浄土に模して崇めたのです。

竹内峠は明治10年～15年にかけて拡幅改修され、昭和50年県道から国道166号線に昇格、昭和59年国道の改修工事が完成し、大阪と奈良を結ぶ主要道路となりました。

国道166号線

難波から飛鳥へ、竹内街道は大陸からはるばる海を渡って来た人々が辿った道であり、渡来系の人々がもたらした文化や技術により大和という新興国の国家体制が整えられていく、そうした人々の足跡が竹内街道では随所にみられます。古代史を実感させ、さらに思索と想像をしずかにかきたてる道。それは日本の道の原形を残している街道と言いかえてもいいでしょう。

写真：二上山